

水稻V溝乾田直播栽培の生育状況（7/16現在）

【生育状況】

農林総合研究所のV溝乾田直播見本栽培圃場は、7月15日に幼穂形成期に到達しました。

また、7月16日現在の生育状況は、苗立ちが良好であった地点（苗立数：200本/㎡程度）では、草丈が71cm、茎数が545本/㎡、葉色値（SPAD-502）が32.9、苗立ちが劣った地点（苗立数：80本/㎡程度）では、草丈が61cm、茎数が355本/㎡、葉色値が38.5となっています。

【耕種概要】

- | | |
|--------|------------------------------|
| ①品種 | まっしぐら |
| ②播種床造成 | 秋季耕起・代かき |
| ③種子処理 | 種子消毒後に浸種し、
キヒゲンR 2フロアブル塗沫 |
| ④播種機 | V溝播種機 |
| ⑤播種日 | 5月11日～12日 |
| ⑥播種量 | 乾粳10kg/10a程度 |
| ⑦施肥量 | 窒素成分10kg/10a程度
(LP100を使用) |



写真1 圃場の様子（撮影日：7/16）



写真2 イネの出芽が早かった地点（左）と遅かった地点（右）

【幼穂形成期の追肥について】

㎡当たりの苗立数が目標苗立数である100～140本を大きく上回った場合、生育が過繁茂になることで幼穂形成期頃の葉色が低下し、穂数や一穂粒数が減少することがあります。この対策として、幼穂形成期に窒素成分で2kg/10a程度（硫安などの速効性肥料）を追肥することが有効です。

技術の内容を詳しく知りたい方は、令和4年度指導参考資料「津軽地域における「まっしぐら」を用いた水稻乾田直播栽培での追肥効果」を参考にしてください。

【令和４年度指導参考資料（一部抜粋）】

津軽地域における「まっしぐら」を用いた水稲乾田直播栽培での追肥効果

- ・ 幼穂形成期の追肥により㎡当たり粒数が増加する。
- ・ 玄米千粒重は並～やや優り、登熟歩合は同程度となる。
- ・ 玄米タンパク質含有率はやや高くなるが、玄米品質は同等となる。

<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/nosui/files/R4-ss1.pdf>